

全員が呼吸をひとつに踊る その高揚感は一圧倒的だ。



初代代表がよさこい祭りに魅了され「よさこい連 風華」を立ち上げたのが2013年。わずか数人から始まったサークルは、5年目にして85人にまで増えました。

三代目の代表である経済学部3年の真鍋菜摘さんは、よさこいの魅力を「圧倒的な高揚感」と言います。出番の前に円陣を組み、「やるぞー」と声を上げる熱気。スポットライトを浴びて、全員が呼吸と心をひとつにするグルーブ感。観客からの大きな拍手。一度経験すると舞台にハマってしまうのだそうです。また、見る人を楽しく元気にするのも、大きな喜び。観客といっしょになって踊る祭りもあります。

よさこいのシーズンは7月から11月。県内と、本場高知や関西など10ほどの大きな祭りに参加します。地域の小さなお祭りやイベントからも声が掛かります。真鍋さんは、昨年の「YOSAKOI高松祭り」で、踊りのエッセンスを言葉で伝えるマイクパフォーマンスを担当。大舞台での経験は、一生忘れられない宝物になりました。

夏には翌年の踊りの準備も始まります。まずは「何を表現したいか」意見を出し合い、テーマを決定。曲班は、音楽の構成を決めて制作会社に作曲を依頼、衣装班はテーマに合った色やデザインを決めて発注など、数人ごとの班に分かれ、秋から冬にかけて下準備を行います。

本格的な練習は5月から。まずは振り付けを覚え、通り身に付いたら、精度を高め、夏に向かつて体力をつけるためにも、何度も何度も繰り返し踊り続けます。この頃の練習は、月・木・土の週3回で2〜3時間ずつ。暑さや疲労

との勝負になる一番苦しい時期ですが、ここを経てこそ本番の舞台で輝けます。

今年のテーマは「誇道(こどう)」。誇りを胸に限界突破して、新たな自分に出会いに行く道程を、全員で踊り切ります。

夏は、県内なら「さぬき高松まつり」「丸亀娑羅祭り」などに出演。今年のチームの目標は、ずばり10月の「YOSAKOI高松祭り」での大賞受賞です。「これは初代代表が立ち上げた祭り。だから風華にしかできない元気さや笑顔、若さとはしるステージを、大賞受賞演舞という形でホームタウンのみなさんに見てもらいたい。そこを指せるチームになりました」と真鍋さん。皆さんもぜひ、風華の熱を感じ、応援してください。

サークル活動

Club Activity

香川大学 よさこい連 風華